

平成 29 年度  
太田市住民協議会 報告書  
「健康づくり」

平成 30 年 2 月 1 日  
太田市住民協議会

## 目次

1. はじめに.....	2
2. 住民協議会概要.....	3
3. 各委員の考える「課題」の概要.....	4
4. 委員からの改善提案概要.....	6
(1) 地域づくり・交流.....	6
(2) 運動習慣・健康意識.....	14
(3) 情報.....	21
(4) 心の健康.....	24
(5) 交通.....	27
(6) 施設・インフラ.....	29
(7) 食.....	30
(8) その他.....	31
(9) 自由記載概要.....	31
5. 協議会を振り返って.....	34
6. 平成 29 年度住民協議会参加者.....	35
7. 付録：アンケート結果.....	36

## 1. はじめに

太田市長 清水聖義 様

昨年7月から始まった住民協議会は10月まで4回開催し、このたびの報告書を出すこととなった。この間、資料の作成や協議会での説明、質疑応答の対応など、開催にあたってご尽力された市長をはじめ職員の皆さんに、まずもって御礼を申し上げたい。

初めて実施する住民協議会のテーマとして私たちに提案されたのは「健康づくり」。現在の太田市は、全国平均や群馬県平均と比べて高齢化率や要介護認定率が低いですが、一方で健康寿命を見てみると、太田市は男性女性ともに全国平均や県平均を下回っていることがわかった。車中心の生活をしている人が多いため、結果に実感を持つ人も多かったかもしれない。

今回のテーマは、直接自分の身体や命にかかわることなので、誰もが興味関心を持つ。ただし、漠然としているので、何が課題なのか、何を改善する必要があるのか、初めのうちはよくわからない人が多かった。しかし、最終第4回で個々の委員が記入した「意見提出シート」には、合計268項目もの改善提案が書かれていた。これは過去に同様の協議会を行った自治体の中でも群を抜いてトップだと聞く。これは、自分にとっても身近な健康について時間をとって考え意見交換することで、多くの課題やアイデアが生まれてくることの証左と言える。

この協議会の最大の特徴は、無作為に選ばれたこと。世代も職業も考えていることもばらばらな50名が集い、議論をする。このような経験は初めての人ばかりで初めは戸惑いがあったが、会を経ていく中でみんなが同じ目線で、率直に話をするようになった。新鮮に感じた委員も多くいたのではないだろうか。

今回の多くの提案や意見を行政としてはしっかりと受け止めて改善を図っていただきたい。私たち委員も、次は行動に移すことで健康な心と体を維持していきたい。

平成30年2月1日  
太田市住民協議会

## 2. 住民協議会概要

今年度初めて、平成 29 年度「住民協議会」を実施した。  
委員、テーマ及び各回の議論は以下のとおりである。

### ○委員

無作為に抽出し協議会委員の案内を送付した数	1500 件
応募した委員（応募率）	50 人（3.3%）
各分科会の委員の数	
・ 第 1 分科会	17 人
・ 第 2 分科会	17 人
・ 第 3 分科会	16 人 計 50 人

### ○テーマ及び各回の議論

テーマ：「健康づくり」

#### 各回の議論

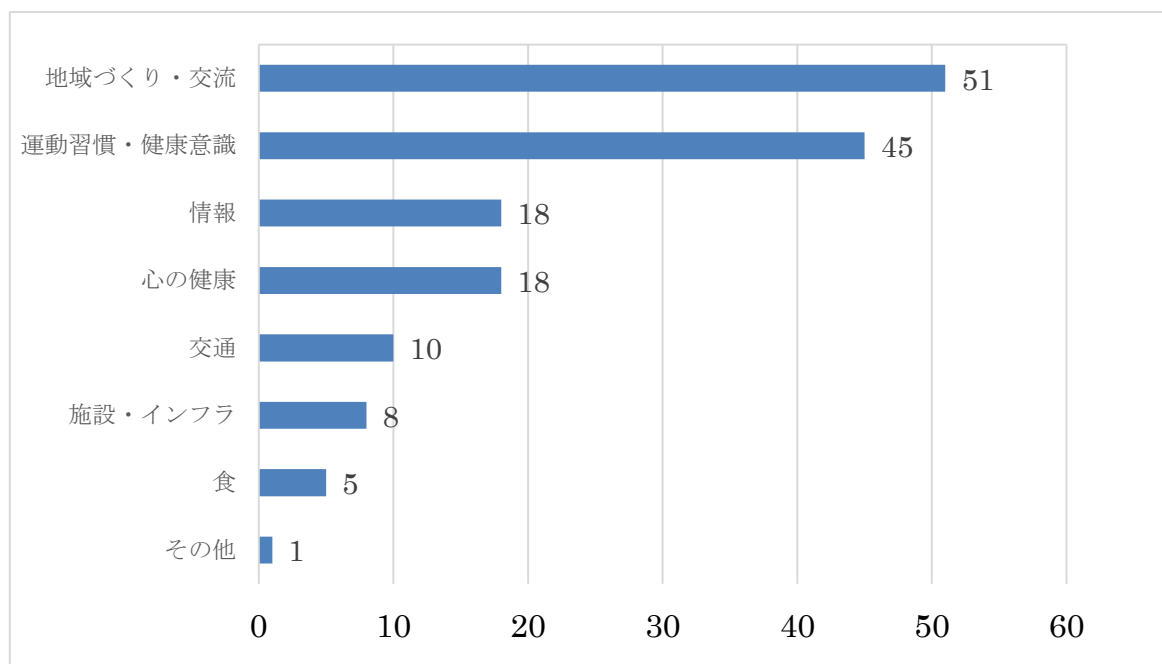
- ・ 第 1 回会議：平成 29 年 7 月 22 日（土）  
テーマに関する説明  
（健康づくり課、長寿あんしん課、スポーツ施設管理課）  
各分科会にて議論
- ・ 第 2 回会議：平成 29 年 8 月 5 日（土）  
各分科会にて議論、「改善提案シート」の記入
- ・ 第 3 回会議：平成 29 年 9 月 2 日（土）  
ナビゲーターによる論点提起  
各分科会にて議論、「改善提案シート」の記入  
分科会においてナビゲーターの参加
- ・ 第 4 回会議：平成 29 年 10 月 28 日（土）  
「改善提案シートの中間とりまとめ」を基にして各分科会にて集約  
に向けた議論  
「意見提出シート」の記入

### 3. 各委員の考える「課題」の概要

第2、3回会議で各委員が「改善提案シート」に記入をした「現状の課題」は156項目に上った。

それらを大まかに分類すると以下のようなになった。

#### 「現状の課題」性質別とりまとめ（第3回終了時点）



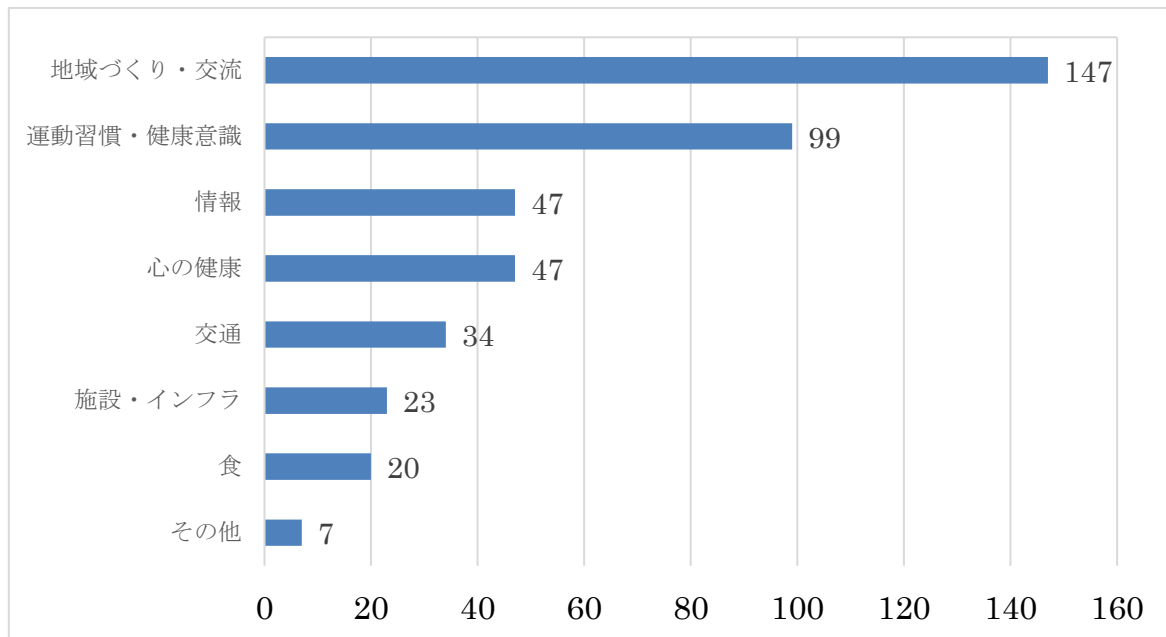
大きくは8項目、具体的な課題は25項目に分類された。

健康を考えるにあたっては、地域での関わりや、交流が大きな課題になっているという意見が最も多かった。また、健康習慣や意識を持つ必要性とともに、健康に関する情報や心の健康も同じく課題になっていることが見えてきた。

第4回会議で各課題についてさらに議論を深め、議論を踏まえて各委員が「意見提出シート」を記載した。

「意見提出シート」を加えた各委員の意見内容を分類すると、以下のようなになった。

## 「現状の課題」性質別とりまとめ（第4回終了時点）



第4回だけで268項目もの記載があり、会を経るにつれて、委員の中に様々な改善策や感じることが出てきたと考えられる。最終的にも、地域づくりや交流に関する記載が最も多くあった。

## 4. 委員からの改善提案概要

### (1) 地域づくり・交流

課 題		地域の関わりが薄い（孤立化している人もいる）
改善提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族との会話やつながりを大切にする。</li> <li>・ 近所の人や孤立化している人との挨拶、声掛け、見守りなどで知る努力をする。</li> <li>・ 地域や近所について積極的に関心を持つ。</li> <li>・ 人見知りをなくす努力をする。</li> <li>・ 行政の事業や子どもの育成会などの地域の行事、運動や趣味、サークル活動などに積極的に参加して地域や近所の人との関わりを持って生活する。</li> <li>・ 回覧板を回すときは直接手渡しをして話をするなど積極的に周りの人と関わりを持つ。</li> <li>・ 犬の散歩は顔なじみができ、とても会話がしやすい。</li> <li>・ 認知症になった場合でも外に出て人との交流を行う。行政センターなどに進んで行ってみる。</li> <li>・ 高齢になる前に地域の役員を引き受ける。</li> <li>・ 知らない人を見かけたら必ずあいさつして、知り合う糸口を探す。</li> <li>・ いろいろなグループがあるので、自ら誘っていく。</li> <li>・ 会社で働いていた時からのつながりを保つ。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなであいさつすることを共通認識として持つ。</li> <li>・ 近所の人との会話や訪問によって見守りをする。</li> <li>・ 高齢者のリスト化などについて各家庭への理解を求める。</li> <li>・ 子どもの育成会を組織する。</li> <li>・ 交通安全、防犯を強化する。</li> <li>・ 集会所などの地域で気軽に集まれる場所、機会を設ける。（土日や夜などにどの世代も揃う話し合いの場やお茶サロンのような場）</li> <li>・ 新たに高齢者の仲間入りをした人に呼び掛けてグランドゴルフの初心者講習会を実施する。</li> <li>・ 認知症発症者を仲間として受け入れる。</li> <li>・ 行政任せにするのではなく、その地域中心で話し合いを行う。</li> <li>・ 民生委員や区長、また健康コーディネーターなどの活</li> </ul>

		<p>動の機会を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域で参加型イベント（まつり、クリーン作戦、草刈り等）を行い、隣組等を通じて参加の呼びかけをする。</li> <li>・ 新しく参加した人には周りの人達がアドバイスをして、深いつながりにしていく。</li> <li>・ 年に1度は隣組の会合をし、アパートや持ち家を問わずにみんなで情報を共有する。</li> <li>・ 各行政区や隣組で行事をPRして、住民の参加を促す。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報などの簡単な支援をする。</li> <li>・ 子どもが安心して遊べる場の提供、道路の整備、事故多発の場所に信号を設置する。</li> <li>・ 集会所や行政センターなどにベンチを増やす。</li> <li>・ 回覧板を回すときに行事予定表を配布するなどもっと有効に活用する。</li> <li>・ 地域の仕事などで住民にやりがいを与え、社会参加を促す。</li> <li>・ 趣味などで集まれる機会や場所を提供する。</li> <li>・ 住民同士がふれあえる行事や話し合う住民協議会のようなことを継続する。</li> <li>・ 子どもの育成会やPTAの組織を作る環境を整える。</li> <li>・ 企業に要望する。</li> <li>・ 健康や交流に関するコーディネーターの育成の機会や場を作る。</li> <li>・ 地域をはじめとして多種多様なイベントに対して、必要に応じて補助金や場所の提供等のサポートをする。</li> <li>・ 人数制限や費用等の負担がなく誰でも参加できるサークルや講座を開催する。</li> <li>・ 定期的に高齢者を訪問する。</li> <li>・ 区長を中心に地域との関わりを高める行動をし、孤立化している人に声掛けをする。</li> <li>・ SNSを積極的に活用する。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時代でやむを得ないが、若い人が元々の集落に住まないで、別の地域に新しい家を建ててしまう現実がある。</li> <li>・ 提案を具現化する必要があるが、誰が主体となってやるかが重要であると感じる。</li> <li>・ 個人情報ではあるが、地域の育成会でどこに新入学児童がいるのか分からず、実際に住んでいるのに名簿か</li> </ul>



		<p>ら漏れてしまった子がいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々が心を開いて取り組まなくてはダメだと思う。</li> <li>・ 自己責任が大半であるので、行動を起こして、楽しみを見出すこと。</li> <li>・ 地域に交流する機会はあるが、楽しくなければ人は集まらない。</li> <li>・ ご近所で空家ができていても、その住人がどうしたのか知る方法はない。個人的なことなので、そのままになっている。</li> <li>・ 行政センターやふれあいセンターでのサークルがもっと気軽に参加できるといい。</li> </ul>
--	--	---

課 題		特に定年後の男性が社会との関わりが薄い
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定年後にまた働くために仕事を探す。</li> <li>・ シルバー人材センターを利用して自分の仕事を見つける努力をする。</li> <li>・ 健康のためと自覚して行政センター等の講座に参加する。</li> <li>・ 地域の役員を引き受けたり、自分に合う活動を調べて参加するなど、できる限り自ら地域との関わりを積極的に持ち、孤立を防ぐ。</li> <li>・ 家族が声を掛けて強制的に出かけるよう促す。</li> <li>・ 近所や知り合いの人に外に出るよう声掛けをする。</li> <li>・ リタイア後の女性の集まりの中に男性も入りやすいようにする。</li> <li>・ 定年前の現役時代から地域との関わりを持つようにする。</li> <li>・ 現役の時から意識して、アンテナを張る。常に柔軟性を持って軽やかに生きる。</li> <li>・ 普段から趣味等の好きなことを通じた活動の継続や仲間づくりをする。</li> <li>・ 地区の運動会等に参加したり、見に行ったりする。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区長をはじめとして、みんなで声掛けや見守りをする。</li> <li>・ 地域にあるサークルなどをあっせんして運動させる。</li> <li>・ 地域行事への参加を呼びかけるとともに、その中で役割を与えるなど、参加しやすい仕組みにする。</li> <li>・ 地域の課題を解決するために、地域ボランティアを募</li> </ul>

		<p>って現役時代のキャリアを活かしてもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現役の若い人に色々な活動に参加してもらおう。</li> <li>・ 参加したら楽しそうで、かつ趣味として継続できそうな男性限定の講座に参加するなどして、同じ境遇の人とつながる機会を作る。</li> <li>・ 年代に合った活動を提案していく。</li> <li>・ 区長や役員の知り合いに声をかけて参加してもらおう。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定年後の男性が何を求めているか把握する。</li> <li>・ 定年後の職業紹介の充実などライフプランのサポートをする。</li> <li>・ 定年を70～75歳まで延長するよう働きかける。</li> <li>・ 社会参加を促すイベントや集まりを開催する団体、またイベント周知をサポートする。</li> <li>・ 各地域の公園等でラジオ体操を開催したり、草刈りや簡単な大工仕事を依頼するなど、参加できるメニューを増やす。</li> <li>・ 行政センター等の講座をもっとわかりやすく広報し、かつ男性が興味を持つようなテーマを考える。</li> <li>・ 新しい住宅団地などでは若者や現役世代が参加しやすいような地域活動の紹介をするなどの仕組みを作る。</li> <li>・ ボランティア活動を推進する。</li> <li>・ 他の地区の事例を紹介し、地域に情報を提供する。</li> <li>・ シルバー人材センターを通じて、現役時代の経験を活かした業務提案ができる環境を作る。</li> <li>・ 趣味の活動ができるサロンを作り、シニア層の活動を取材して市民に広げていく。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シルバーで働きたい人は別の方法を考える必要がある。</li> <li>・ 男性は特に外に出ない人が多いが、話すきっかけをこちら側から向けると意外に参加してくれる。</li> <li>・ 在職中の地位やプライドが邪魔をして、なかなか社会参加を躊躇すると聞いた。在職中から、定年後を考える機会が有ったら良いと思う。</li> <li>・ ゲートボール、グランドゴルフなどの定番以外に他に何かないか？</li> <li>・ 老人クラブは女性が少なく、男性が女性の2～3倍の会員がいる事例もある。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外に出る男性とは仕事場で一緒になる機会があるが、元気で明るい人たちのように感じる。</li> <li>・ 男性は妻に頼りきりのところがあるので、奥さんも全てやってあげるのではなく、家庭でも自立させる必要があるかもしれない。</li> <li>・ 隣り近所だと自分の家の様子を知られたくない意識を持つ男性が多い感じがする。</li> </ul>
--	--	--

課 題		世代間交流が少ない
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ できるだけつながれるように外出する。</li> <li>・ 外に出て近所の人に会ったら、些細なことでもいいからあいさつして、徐々に近所の人を知るようにする。</li> <li>・ 地域行事（育成会、クリーン作戦、まつり、運動会等）に積極的に参加する。</li> <li>・ 地域の人達と交代でリーダーを作っていく。</li> <li>・ 学童の旗振り（登校の見守り）に参加し、色々な親子と知り合う。</li> <li>・ 積極的に若い人と高齢者で会話をする。</li> <li>・ 孫を通してできるだけ交流するように心がける。</li> <li>・ 親子のつながりを大切にし、地域コミュニティの向上を目指す。</li> <li>・ 若い時から関心のあることにアンテナを張り、サークル活動に参加してみる。</li> <li>・ それぞれの年代への理解や思いやりを持ち、人のつながりを大切にする。</li> <li>・ 自己が確立している人に対しては、聞き役をする。</li> <li>・ 内容に応じていろいろな立場の人と横断的な話し合いをして物事を進める。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近所同士で集まれる会を作り、顔や名前くらいは知っておくようにする。</li> <li>・ あいさつや見守りをし、行事で助け合う。</li> <li>・ 親や子と共通の知人を作る機会を設ける。</li> <li>・ 大人と子どもの交流を深く行うために夏まつりや運動会、サークル活動など世代関係なく参加しやすいイベントを積極的に行い、気軽に参加できるようにする。</li> <li>・ 行事開催のお知らせなど地域でできることをする。</li> <li>・ 地域でボランティア活動を実施する。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラジオ体操、年2回のクリーン作戦、子どもたちへの見守りをする。</li> <li>・ 地区運動会などで、育成会や成人学級、老人クラブ、婦人会、体協等の各種団体が合同で催し物を計画し、世代間で交流する。</li> <li>・ 年間行事を計画し、各班単位で参加を促す。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集会所などの話し合う場にポスターを作るなどして、地域との交流を多くする。</li> <li>・ おまつりやコマなどの伝統芸能の伝達、スポレクのように多世代が参加しやすくつながりができる場を提供する。</li> <li>・ 地域主催行事に対してテーマの提案や場所、必要物品の提供、補助金による奨励をする。</li> <li>・ 市役所や行政センターなどをもっと入りやすくする。</li> <li>・ 今回のような住民協議会を色々なテーマで何度も開催し、異世代の人と意見交換し合う機会を設ける。</li> <li>・ <b>PR</b> ポスターの掲示や広報を通じて催し物の参加案内など、できる限り情報を発信する。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世代間交流を密にすることによって、大人と子どものつながりが生まれると思う。</li> <li>・ 特に違う世代とのコミュニケーションが少なくなってきた。</li> <li>・ 本音で話せる相手が少なくなっている。</li> <li>・ 高齢者になっても健康を維持するためには、世代間で情報を共有し、現役世代に対してどう動けるかが課題である。</li> <li>・ 親世代と子世代が別暮らしの現在では仕方ないと思う。</li> <li>・ 仕事の持ち方などが変わった今の時代だと、なかなか行事などへの参加は難しく、強制的では逆効果。</li> <li>・ リーダーや世話役の方々の取り組みが分からず、地域の催しに参加できずにいる。</li> <li>・ 今回住民協議会に参加させていただいて、市内の様々な年齢の方の話聞き、色々な学びがあった。特に分科会は少人数なので、深い話を聞くことができ、もっとこのような機会が多くあればいいと思う。</li> <li>・ 世代間交流を積極的に実施している。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孫との通学で十分様子が分かるので現状維持で満足している。</li> <li>・ 少々面倒な部分もあるが、家族間でつながれている。</li> <li>・ 市街地だが、少子化、世帯数の減少、高齢化が起これ、近い将来「限界集落」になるかもという不安がある。長く住む人（終の住居と考える）と転居を前提として住む人（社宅、集合住宅）とで考えの隔たりが大きい。</li> </ul>
--	--	--

課 題		一人暮らし高齢者に対するサポートが足りない
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近所の一人暮らし高齢者を把握し、声掛けや挨拶をして様子を見る。</li> <li>・ 勇気を持って訪問し、生活の様子を聞いたり催し物の案内をするなどして気を配る。</li> <li>・ 通院を補助したり、コミュニケーションを充実させる。</li> <li>・ 自分自身も一人暮らしなので、日々元気であることを最大目標にしている。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラジオ体操のような軽い運動や催し物の準備協力など、参加しやすい環境を整える。</li> <li>・ 共通の友人や同世代の人、また隣組単位で声掛けをするなどして充実したコミュニケーションをとる。</li> <li>・ 同世代の友人、ご近所や隣組長、地域包括支援センターやふれあい相談員など多くの人が様子を見るなどして、高齢者の状況を把握すると同時に、充実したコミュニケーションをとる。</li> <li>・ 地域の老人クラブや青年会などで情報を共有する。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域のお世話役（民生委員や婦人会など）の活動をしっかり把握し周囲に伝える。</li> <li>・ デマンドバス（おうかがい市バス）やボランティアタクシーを充実させ、タクシー券等で金銭的な補助をする。</li> <li>・ 在宅医療を充実させる。</li> <li>・ 一人暮らしの高齢者が必要なサービスやサポートを抽出する。</li> <li>・ 対象者に合わせた専門家（カウンセラー等）を増やす。</li> <li>・ 催し物の PR をサポートする。</li> <li>・ 民生委員を増員し、活動を活発化させる。</li> <li>・ 緊急通報装置等を安価や無料で貸し出す。</li> </ul>

	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 違う隣組の方だと相談しづらい。</li> <li>・ どの家に一人暮らしの人が居るのか、まず不明である。</li> </ul>
--	-----	--

課 題		地域での健康づくりの取組みが不十分
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8020（80歳で20本の歯を維持する取組み）等、自分で気をつけて健康づくりに参加する意識を持つ。</li> <li>・ 自分の年齢に合わせて、持続可能で無理のない健康方法を見つけて実施する。</li> <li>・ 健康について自分で学習するとともに、セミナー等でもっと知りたい内容についての希望を行政に伝える。スポーツを始めて、誰か一緒にできるような仲間を作り、ウォーキングやジム等に行く時にはお互いに誘い合う。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなに働きかけ、指導者や場所を提供する。</li> <li>・ 健康づくりの応援団を育てる。</li> <li>・ 地域の情報を共有できるような書類を配布する。</li> <li>・ 友人や近所で集まって話をする機会を設けたり、健康イベントを開催する。</li> <li>・ 隣組長が前向きに行動しているところもあるが、時間や場所を決めてラジオ体操を行う。毎日は難しいかもしれないが、隣組でこぞってやると元気がでる。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退職した体育教員などの人材を発掘し、活用する。</li> <li>・ 行政センター等を利用しやすくする。</li> <li>・ 運動公園のトリムコースを早く直し、膝などに負担がないようにする。</li> <li>・ 健康に関する指針や方針を明確にしてサポートする。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活の時間帯は全住民が一律ではないが、ラジオ体操の参加者は徐々に増えてきている。</li> <li>・ 今回住民協議会に参加して、スポーツの重要性を再実感することができた。</li> <li>・ 仕事をリタイアしたらパークゴルフ等のスポーツをやりたいと思っている。</li> <li>・ 年齢的に運動会やレクリエーションに参加できないので難しく思える。</li> </ul>

課 題		核となる人材次第で活動の存続が左右される
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報をチェックし、市の主催事業など様々な活動興味を持ち、積極的に参加する。</li> <li>・ 核となる人材に近づくように学ぶ。</li> <li>・ 核となる人だけに押し付けずにみんなで分担して協力しながら、物事を行う。</li> <li>・ 自分の経験をオープンにする。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サロン等の手伝いをしている方々にも意識してもらえらるよう地域包括支援センターが介入する。</li> <li>・ 区長、隣組長、役員だけでなく、その人たちを補佐する人に参加を呼びかけるなどして後継者を育てる。</li> <li>・ リーダーの育成等の講習会を継続的に行う。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成人学級や運動サークルに参加している人が 20 年、30 年後に中心人物（リーダー）となれるように育成し、頼りにする。</li> <li>・ 住民協議会の無作為抽出による委員選出のように、いいことは形や中身を変えてもっと増やして実行する。</li> <li>・ 後継者育成のサポートをする。</li> <li>・ 住民協議会のような形で、他地域の活動を知らせることで、その地域で活動する人を増やす。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーダーのサポートが出来るようなサブの支援方法を考える必要がある。</li> <li>・ 何人かを核と決めつけているからこそ、衰退する可能性があるのではと思った。みんなが主体となれば、活動ができるのではないかと思う。</li> <li>・ 行政による主導によって、核となる 1 人ではなく、数人で活動できる組織作りは必要ではないか。</li> </ul>

## (2) 運動習慣・健康意識

課 題		子育て世代などの現役世代が運動不足、けん診未受診であり、対策も不十分
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の健康状態に関心を持つ。</li> <li>・ 会社などで定期的にけん診を受け、しっかりと自分の身体について知る。</li> <li>・ 近所や親しい人に声掛けをする。</li> <li>・ けん診に関心をもち、黄色の案内封筒を確認する。</li> <li>・ 忙しいことを理由にして先送りにしないで、自分事と</li> </ul>

		<p>して、運動の大切さやがん検診を受診をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本やインターネットから病気について理解を深める。</li> <li>・ 時間がなくてできないという意識を改善して、子どもと一緒に体を動かすなど、目標を持って運動する時間と場所を自分で作る。</li> <li>・ 特別な運動でなくても、空き時間のストレッチ運動や近い場所に行く時は車を使わないようにする。</li> <li>・ 「ながら運動」を心がける。(TVを見ながらの健康器具の使用、ラジオを聞きながらウォーキングなど)</li> <li>・ 小さなことから始めて楽しく習慣化できるように、何かできることを探す。</li> <li>・ 週2～3回以上のペースで1時間以上の運動することを心がける。</li> <li>・ 広報をチェックして、土日に行っている事業に参加する。</li> <li>・ 若い世代は各自の呼びかけでフットサルなどをして体を動かす。</li> <li>・ 行政センターや保健センターに足を運ぶ。</li> <li>・ 40代の働き盛りの頃から健康維持を心がける。</li> <li>・ 規則正しい生活を心がける。</li> <li>・ ゴルフやグラウンドゴルフなどの団体で行うスポーツに参加する。</li> <li>・ 自分の限界を見極めて、働く時間を短縮する。</li> </ul>
	<p>地域の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動するイベントを地域で行う。</li> <li>・ 歩きやすいように道路等の草刈りなどをする。</li> <li>・ 住民が参加しやすいサークルやイベントをすることで、行政との橋渡し役となる。</li> <li>・ 知り得た情報を周囲に伝えて、関心のある人を誘う。</li> <li>・ 地域として人集めが難しければ、職場のサークル的な活動で場所を提供する。</li> <li>・ 自分の経験を伝えたり、相談できる場を持ち、互いに検診に行ったか確認しあうなどして、コミュニティを強化する。</li> <li>・ 子どもの運動会等で案内を配布するなどして、子どもから親にけん診や運動に参加させるようにすると同時に、子どもを預かる場所や人員を確保する。</li> <li>・ 集団けん診日の呼びかけや個別けん診のおすすめや予</li> </ul>



		<p>約の空き状況などの情報交換をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ピンクリボンや女性用トイレへのポスター貼付などによって女性のがん検診受診の啓蒙活動をする。</li> <li>・ 再検査の受診について事業所が定期的に確認する。</li> <li>・ 健康推進員等の役員が地域の健康づくりのリーダーとして活動する。</li> </ul>
	<p>行政の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若いうちから健康に関心を持たないことについてのリスクを伝える。</li> <li>・ 病気経験者との接点作りをする。</li> <li>・ 行政センター等を中心に健康づくりの講座を開く。</li> <li>・ イベント等のわかりやすい提示、PR、興味のもてる内容、曜日時間を設定する。特に男性や若い世代が参加できるような内容とする。(高齢者向けのイベントが多く参加しづらい。)</li> <li>・ 行政センターを一般開放する。</li> <li>・ 区長、民生委員への依頼を強化する。</li> <li>・ 地区単位で深夜まで安心して運動ができる施設を作ったり、補助したりする。</li> <li>・ 労働基準法を知らせ、遵守させる。</li> <li>・ 「ながら運動」をするための機材、器具の補助やレンタルをする。</li> <li>・ 歩きやすいように道路等の草刈りをするなど、運動する場所や環境を整備する。</li> <li>・ 住民参加型のサークルや行事の活動場所を安価に提供して、テーマを提案する。</li> <li>・ 仕事のストレスなどメンタルヘルスの相談ができる場を整備する。</li> <li>・ 労働基準監督署と連携してけん診受診を啓蒙する。</li> <li>・ けん診のわかりやすい案内やPR活動をする。</li> <li>・ けん診の受診可能年齢を引き下げる。</li> <li>・ 電話、メール、ハガキなど多様な形でけん診の申し込みを受け付ける。</li> <li>・ 市でけん診車を導入するなどして、がん検診（特に乳がんのマンモグラフィ）の受診可能人数を増やしたり、土日祝日の検診や再検査を実施する。</li> <li>・ けん診期間の延長や時間や曜日の拡大を検討する。</li> <li>・ 無料で再検査を受けられるように補助をする。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントに合わせてけん診を実施するなどして、特に親世代に向けた受診勧奨をする（「楽しさ」を作る仕組みづくり）。</li> <li>・ 特に運動時間の少ない年代に絞った運動の事例作成。</li> <li>・ けん診とは別に、運動能力テストを試してみる。</li> <li>・ 子どもと参加できる行事を増やす。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当事者意識を持つことが大事だということがわかった。</li> <li>・ 乳幼児や高齢者に対する保健師はいるが、中間の年齢層に対する対応がない。</li> <li>・ 市職員の説明によると、乳がん検診については受診可能人数の不足で希望の日時に予約が取れない、もしくは定員オーバーで断っている現状とのことであるので、予約方法の改善を願いたい。</li> <li>・ 特定健診や健康相談が身近な場所でいろいろな所であればいい。</li> <li>・ 行政の指導下のヘルスチェックやけん診受診はかなり周知されている。</li> <li>・ けん診の周知。（黄色の封筒は目立って、分かりやすくして良い。）</li> <li>・ 運動習慣はスポーツサークルに参加している。</li> </ul>

課 題		高齢者が健康に暮らすための取組みの強化
改善提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ながら運動」を実践する。（TVを見ながらのスポーツ器具使用、CD,ラジオを聞きながらウォーキングや草取りなど）</li> <li>・ 生活全般の見守りや食生活を充実させる。</li> <li>・ 年々体力が落ちているので健康面を考える。</li> <li>・ けん診を受けるようにする。</li> <li>・ 家族を通じてお互いに情報を共有する。</li> <li>・ 友達に声を掛けて誘い合ったりして勇気を持って地域活動に参加してみる。</li> <li>・ 色々なことに積極的に参加する。参加を目標とする。</li> <li>・ 分からないことは、まず窓口で相談するなどし、自分から行動して答えを出すようにする。</li> <li>・ 行政センターの講座や運動施設を調べて活用できるようにする。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要支援になってもデイサービス等に通ってトレーニングを行う。</li> <li>・ 腰の手術を受けていても、スイミングなどの身体に負担の少ない運動を継続する。</li> <li>・ 若いうちから健康に配慮して、食事に気を遣って筋肉を維持したり、予防医療で免疫力を高めるようにする。</li> <li>・ ロコモティブシンドロームのチェックをする。</li> <li>・ 健康づくりを推進する団体に所属する。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老人クラブの参加など外に出る機会を持てるように声掛けをする。</li> <li>・ みんなで集まっておしゃべりできるようなスペースを設けたり、まつりなどで集まったりして、その取り組みをみんなで育てる。</li> <li>・ 軽スポーツを仲間と楽しむ。ラジオ体操などを地域のスポーツ広場で実施する。</li> <li>・ みんなでロコモティブシンドロームについて学び、予防のための運動セットを集会所に導入して活用する。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 器具のリースの補助を検討する。</li> <li>・ 気軽にできるトレーニングをレクチャーするなど介護予防教室を充実させる。</li> <li>・ 高齢者の交通手段をサポートする。</li> <li>・ 平日中心の運動や健康の講座を土日にも開催したり、遅い時間まで運動施設を使えるようにすることで、若いうちから運動しやすくする。</li> <li>・ ロコモティブシンドロームの周知や対策をする。</li> <li>・ 公園などのトイレをもっときれいにして外に出やすくする。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回の住民協議会に参加して、太田市の現状を知ることができた。また、自分の心配事を相談できて良かったので、自分の経験したことも発表できるように頑張りたい。</li> <li>・ 地域への参加が少なく、近所のことでも知らずに毎日過ごしてしまっているのが、機会があったら今回のように参加したいと考えることができるようになった。</li> <li>・ 太田市ではロコモティブシンドロームの周知がまだまだ進んでいない。運動部でバリバリの高校生の息子が重症の肺炎で一週間寝たきりとなった際、太ももの筋</li> </ul>

		<p>肉がごっそり落ちた。高齢者であれば復活は困難だったと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色平先生の価値観のお話など、ナビゲーターの講演で色々知ることができて大変参考になった。</li> <li>・ 姉の術後のケアをする病院の少なさに困るなど、老後の現実に直面した。私自身も1人暮らしをしているので、自分に置き換えて考えさせられた。</li> <li>・ 孫がケガをして入院した際には、市内の病院の現状を知った。</li> <li>・ 誤嚥をしないように日常的に注意したい。</li> <li>・ 万歩計を付けて、できる限り1日7,000～8,000歩になるよう頑張っている。</li> </ul>
--	--	--

課 題		手軽にできるスポーツ、新しいスポーツが普及しない
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普及のためのボランティアをする。</li> <li>・ 庭などで新しいスポーツができるか検討する。</li> <li>・ 自分の体力を自覚し、レベルアップのための目標を立てる。</li> <li>・ 公園の芝の場所を利用したウォーキング、地区の運動会やラジオ体操に参加する。</li> <li>・ 広報紙を読み、楽しそうなもの、自分にできること、やってみたいものに積極的に参加してみる。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ経験者を推薦する。</li> <li>・ 多くの参加者を得るためのPRをする。</li> <li>・ 手軽にできるスポーツや新しい遊びを考える。</li> <li>・ お互いに声を掛け合い、誘い合って自主グループを作る。</li> <li>・ 隣組単位のスポーツ交流会を開催し、その案内をする。</li> <li>・ 手本となる人を連れてきて、指導を受ける場を作る。</li> <li>・ スポーツアカデミー、スクール、サークル、チームなど実施主体をもっと増やしてできる場所を増やす。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーダー育成を進める。</li> <li>・ 施設整備を強化する。</li> <li>・ 広報でスポーツ講座の募集を見かけるが、高齢者向けのスポーツや遊び（囲碁や将棋など）の募集を増やす。</li> <li>・ 中学や高校で続けられるように、学校に部活動を作る。</li> <li>・ 市民が参加できる行事の情報をより広く周知できるよ</li> </ul>

		<p>うに周知方法を改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各地区でのサークル活動を勧め、全国的な大きな大会があったら情報共有する。</li> <li>公園を見直して、新しい遊具を設置する。(一例として、ゲートボールに代えて、ボルダリングにするなど。)</li> <li>公共施設の利用枠を拡大する。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行が伴う軽度の運動をすることによって、身体の状態が良くなると思う。</li> <li>年金暮らしでも楽しく参加できるサークルが欲しい。</li> </ul>

課 題		集会所を活用した健康の取組み
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>試写会の開催など集会所の中でできる行事を提案、計画する。</li> <li>おしゃべりの場を集会所にするなど足を運ぶ。</li> <li>地域のサークルを作るなど活動呼びかけ、関心のあるものを一人一人集める。</li> <li>自分の職業を活かして、健康についての講義や運動・脳トレをサロンなどで行えるように代表者に声掛けをする。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会所の利用規約を個人でも使いやすいようにして外へ発信していく。</li> <li>集会所の管理や整備をする。</li> <li>関心のある方々で方向づけをする。</li> <li>隣組単位で競争して参加者が集まるよう盛り上げる。</li> <li>特に一人暮らしの高齢者男性に声を掛けて定期的にサロンを開催する。人数が集まれば活動計画を作成するなどして、いきいきサロンを拡大する。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会所に誰でも使えるような健康や運動器具等を貸与する。</li> <li>広報で集会所の利用について周知する。</li> <li>サロンのリーダーに対してフォローする。</li> <li>集会所の整備やサロンなどの事業に補助金を出して支援する。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>築 30～40 年経過しているところもあるので、場所を近代化することが必要。</li> <li>近所の集会所をどのように利用できるのか知らない。昔から住んでいる方々がカラオケを利用していると聞</li> </ul>

		<p>いたが…。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>代表者がやめてしまうとサロンや老人クラブが無くなってしまうので、継続できるような支援があるといい。</li> <li>育成会、青年部会をメインにした地域活動をすすめる。</li> </ul>
--	--	---

課 題		NPO の活用が不十分
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活者としての知恵を学ぶ。</li> <li>NPO 団体の情報を知る。</li> </ul>
	地域の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>活躍の場を整える。</li> <li>地域と NPO の関わりをすすめ、隣組でも事例を紹介する。</li> </ul>
	行政の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>場を整えること以外の企業への働きかけや定年後のプランを考える。</li> <li>NPO への支援を強化する。</li> <li>NPO に対して地域との関わりを促す。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>多目的な利用方法を考える。(個人的に)</li> </ul>

### (3) 情報

課 題		健康に関する正しい情報が伝わっていない
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンテナを高くし、広報紙をよく読んだり、ネットで情報収集して勉強する。</li> <li>ネットの情報をむやみに信用しないで、自分自身で正しい情報を判断する。</li> <li>保健センターからのお知らせを通じて、太田市の健康目標を知る。</li> <li>住民協議会に参加しなければ市の健康づくりを知ることができなかったため、参加できる人は参加する。</li> <li>自分に合った健康法を確立する。</li> </ul>
	地域の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政センターや地域コミュニティを通じて、健康の目的、目標を知る。</li> <li>住民協議会は市のやっていることを知るいい機会であると PR する。</li> <li>回覧板を利用して正しい情報を伝える。</li> </ul>
	行政の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政センターだよりに載せる。</li> <li>広報紙やホームページ等を充実させ、健康の指針や目標などの重要なお知らせは多様な形で情報を発信し、</li> </ul>

		<p>様々な世代の目に触れるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報紙をより詳しくした情報を Web やリーフレットなどに掲載して、健康を「自分事」にすることを啓蒙する。</li> <li>・ 保健センター以外にショッピングセンター等でも広報活動を行い、市民に周知啓発する。</li> <li>・ 情報を整理し、住民と話し合い適切な方向性を見出す。</li> <li>・ ランダムに選んで皆が参加できるような場を作る。</li> <li>・ 保健センターや健康センターを増やしたり、行政センターのイベントとして健康に関することを多く実施する。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県や市の広報紙、スポーツ特集紙が届かない人にどう届けるか。コンビニにある事を知らない。</li> <li>・ 地域への参加をしてみたいので、情報収集を頑張ってみたい。</li> </ul>

課 題		運動施設やスポーツ団体に関する情報を知らない
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的に利用する。</li> <li>・ 広報紙やホームページを通じて、運動施設の情報を自分で入手するよう努める。</li> <li>・ 自分が経験したスポーツを通して健康を考える。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動施設のゴミ拾いなど必要なことは地域で管理する。</li> <li>・ サークル、団体から依頼されたらポスターを張り出すなどサポートをする。</li> <li>・ 参加希望があれば喜んで受け入れる。</li> <li>・ 地区のスポーツ経験者を確認する。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康や運動などの情報のみでの広報を作るなど、広報の仕方を工夫する。</li> <li>・ 運動施設の開場時間の 22 時頃までの延長やボルダリングなどの新しいスポーツ施設を設置する。</li> <li>・ 行政センターに利用団体の一覧があるが、広報紙にスポーツサークル、スポーツ少年団の各種一覧を掲載する。</li> <li>・ 各スポーツ団体の広報活動活発化のための補助金を出す。</li> <li>・ スポーツ経験者を一般から募集する。</li> </ul>

課 題		医療（かかりつけ医）に関する情報が不十分
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師会のホームページや市が配っている医療マップ等で身近な病院を知るなど、インターネットによる情報収集をする努力をし、情報を自分で管理する。</li> <li>・ 市内の個人医療機関などに行くようにする。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近所で聞いてみるなど口コミで情報収集する。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療マップを作成・配布する。</li> <li>・ 広報紙等で医療マップや専門医の紹介をする。</li> <li>・ 大きな病院にある個人医療機関のチラシなどをもっと色々な場所に置く。</li> <li>・ 医療マップだけでなく、医療機関の情報（医療内容、空いている日時）を充実させる。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政は特定の機関を紹介するのは難しい。</li> <li>・ メディアの情報は豊富だが、異なる意見もあるので、何が正しいのか判断することが不可欠である。</li> <li>・ 自分自身健康でいられているので、現段階では不満に考えることがない。</li> <li>・ 年齢とともに医療の必要性が問題になると思うので、これからは情報を手に入れたいと思う。</li> </ul>

課 題		特に現役世代への周知・啓発が不十分
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会社の同僚など周りの人に話して意識を向けやすくし、情報交換をする。</li> <li>・ バランスのいい食生活への見直しと自己管理が重要であることを意識する。</li> <li>・ 子どもに広報紙に目を通すように勧めるなど、若いうちから教えたり調べるようにする。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 隣組単位で、回覧板と同じように広報紙を回す。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休日にも健診を実施する。</li> <li>・ 健康への取組みや意識について企業に説明・働きかけをして理解をもらう。</li> <li>・ 30代、40代から気をつけないと高齢期を迎えて大変で困ることになると知らせる。</li> <li>・ 若い人が広報紙を読めるように、新聞をとっていない家庭や飲食店等に広報紙を配布する。</li> <li>・ 市役所以外での広報紙の配布場所の周知をする。</li> </ul>



		<ul style="list-style-type: none"> <li>現役世代が集まりやすいイベントを開き、周知・啓発をする。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に男性の意識が低い。</li> </ul>

(4) 心の健康

課 題		悩みを気軽に相談できなくなっている
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分から孤独にならないようにする。前向きに考え、抱え込まないようにする。</li> <li>日頃から家族や友人等とコミュニケーションをとって悩み事を相談できるようにする。</li> <li>スポーツをしてできるだけ悩みを解消する。</li> <li>趣味などの共通の話題や活動ができる仲間を作り、困ったことを気軽に相談できる関係性を構築する。</li> <li>地域の行事等に参加して近所の人と関わりを持ち、意識的に声掛けをする。</li> <li>話を聞く立場の場合には、相手が話しやすい聞き方や会話の雰囲気などを作る。</li> <li>変化に気付いてあげる。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>区長や民生委員に頼るだけでなく、イベントなどをきっかけにして地域で集まりやすく、おしゃべりしやすい場を作る。</li> <li>サークルやクラブに積極的に参加して、話しやすい人と知り合う。</li> <li>挨拶や気軽に声掛けをするなど、周りの人におせっかいをするくらいの関係になる。</li> <li>個人と行政の橋渡しをする上で、悩みの状況や相談窓口などの一覧を作成する。</li> <li>趣味のサークルを強化して交流の場とする。</li> <li>地域の人が飛び込める場所を作る。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>電話相談窓口の設置などもっと気軽に相談しやすい環境を作る。</li> <li>相談窓口の存在を知らせるために、悩みの有無に関係なく参加できるイベントを実施する。</li> <li>児童館や保健センターなどで相談できるようにする。</li> <li>様々な窓口を設けて、相談者の色々なニーズを把握し、気軽に相談できる機会を作る。</li> <li>何となく調子が悪い未病の段階で救う方法を考える。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おせっかいになるくらいでも心配し、訪ねる。</li> <li>・ 保健師の活動を地域に広げる。</li> <li>・ 住民協議会を繰り返し開催する。</li> <li>・ 「相談員」の育成と各地区への配置を検討する。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夜に深く悩むのは視野がクローズしているからダメ。朝考えると小さな事であったりする。命までとられるような悩み事は少ない。</li> <li>・ 私だけかもしれないが、親しすぎる人に聞かれない悩みもあると思う。そのため少し距離がある全然知らない人と関わる機会も大切と思う。</li> <li>・ 悩みは昔からできる人はできるし、できない人はできない。昔も今も変わっていないと思う。</li> </ul>

課 題		ストレスを抱える人が多くなっている
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体を動かしたり、入浴を行ったりする。</li> <li>・ 朝食を取る、生活習慣を見直す、気分転換できるような多様な趣味を作る。</li> <li>・ 1人で考えず、ストレスや悩みをうちあける相手を探して相談する。</li> <li>・ 毎日元気で暮らすことで、できるだけ平常心でいるよう心がける。</li> <li>・ 職場の健診や厚生労働省のこころの耳でストレス度をチェックする。</li> <li>・ 変化に気づくようにする。</li> <li>・ 家族で情報共有や見守りをする。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挨拶をするなど近所同士の良い距離感でお付き合いをして寄り添う。</li> <li>・ 気にかけて見守る。</li> <li>・ コミュニティを強化する中で、趣味が同じであれば集まりに参加するよう勧める。</li> <li>・ 気軽に相談できる場を地域に設けるなどして、ストレスや悩みの変化に気づける環境を作る。</li> <li>・ 相談場所の提示やサポートをする。</li> <li>・ ストレスを抱えていないかどうか地域で確認をする。</li> <li>・ 地域の催し物に参加しない人や疲れているような人には、区長や民生委員、ふれあい相談員の協力を得て、情報を知らせる。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会社でストレスチェックを実施する。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者、主婦、自営業者のストレスチェックや面談をする環境を作る。(今はそのような環境がないと聞いた)</li> <li>・ 電話や対面がダメな人もいるので、書面やインターネットも利用した相談窓口を作る。</li> <li>・ おせっかいくらいでも心配し、訪ねる。</li> <li>・ ストレスチェックを受けた後に結果をフォローアップしたり、カウンセリングを受けられる環境を整備する。</li> <li>・ 医療機関や相談所を充実させ、紹介できる体制を整える。</li> <li>・ 医者を育てたり、呼び入れたりする。</li> <li>・ 保健センターや地域包括支援センターが介入する。</li> <li>・ パワハラやモラハラなど対人間に対する問題の解決に力を入れる。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康は、身体だけではなく、心と身体がともにバランスがとれていないと難しい。</li> <li>・ 生きていく上でストレスは必要とのこと。他人と交流することで、嫌なこともあるけれど、良いことはもっとあると思う。</li> <li>・ 先日観たドラマに影響されているのだが、どのくらい突っ込んでいいのかがテーマになっていて少し考えさせられることがあった。</li> </ul>

	課題	不登校や引きこもりなどの相談体制が十分に整っていない
改善提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校、児童相談所、医師、カウンセラーと相談する。</li> <li>・ 情報を知っていたら周囲に気を配る。</li> <li>・ 子どもとの会話を大切にする。</li> <li>・ 趣味が同じ人同士の交流を考える。</li> <li>・ 声掛けよりも見守りに重きを置く。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の不登校ネットワーク、NPO 組織を作り相談の受け皿にする。</li> <li>・ 引きこもり者同士のコミュニティを作り、専門カウンセラーの情報網を整備する。</li> <li>・ 学校だけでなく、地域にも逃げられる場所を作る。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健センターで当事者の相談を受けたり、専門医の紹</li> </ul>

		介等をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 軽作業を依頼することで社会への参加を促し、社会復帰できるようなシステムを作る。</li> <li>・ 当事者に加えて、家族のサポートもする。</li> <li>・ カウンセラーを増員する。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引きこもりになった場合、相談相手がいないので途方に暮れそう。</li> </ul>

(5) 交通

課 題		公共交通機関が少ない(利用されていない)、自家用車の利用が多い
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バス停を知る。</li> <li>・ 近所のコンビニなどの行ける範囲は自転車・徒歩で移動して、意識して動くようにする。</li> <li>・ 相乗りをする。</li> <li>・ 可能な限り電車を利用する。</li> <li>・ 車の点検をしたり、安全運転を心がける。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駐輪場を整える。</li> <li>・ 歩いて集まることのできる地区単位でイベントを行い、婦人会、民生委員や相談協力員へ協力を依頼する。</li> <li>・ 不便な状態についての情報を収集する。</li> <li>・ 個人タクシーを活用した交流タクシーで助け合う。</li> <li>・ ついでに買うなどして高齢者の買い物の代行やサポートをする。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 送迎車、買い物サポート、送迎サポーター、宅配サービスをしてくれる場所の一覧表の作成、デマンドバス(おうかがい市バス)の周知をする。</li> <li>・ バスに乗りたくなる工夫をする。(朝夕のラッシュ時にバスの本数や経路を増やす、列車ダイヤに合わせた運行、無料バスの提供、おすすめスポットの配布等)</li> <li>・ 福祉車両への補助を拡大する。</li> <li>・ セーフティ・サポートカー(安全運転サポート車)の普及を支援する。</li> <li>・ 自転車専用道の整備や速度制限の見直しなど、事故がなくなるような工夫をする。</li> <li>・ 公共交通機関が必要な場所については整備する。</li> <li>・ 個人タクシーを活用して交流タクシーを運行する。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護保険受給者や運転免許返納者などにタクシー券などを補助する。</li> <li>・ デマンドバス（おうかがい市バス）の運行時間とルートを拡大する。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バスに自転車も乗せられたら利用しやすい。</li> <li>・ バスの利用がしづらい。</li> <li>・ バスのステップが高すぎて高齢女性が乗車するのに苦労している様子を目にしたことがある。</li> <li>・ 上毛電鉄は30分間隔、東武桐生線は日中1時間間隔でのダイヤであり、これを改善してもらいたい。</li> <li>・ 重要施設（行政センター、病院）や生活必需品を売る店などに公共バス路線を通す。</li> <li>・ 1人暮らしの姉は運転できないが、公共施設を利用することが多い。太田の中心市街地に出たり病院に行ったりすることが大変だ。</li> <li>・ 利用する人が少ないから本数も少ないと思うが裏を返せば、本数が少ないから、利用したいところの最寄りまで30分近くかかるということで利用できないという負のループのような現状に陥っていく。</li> <li>・ 「公共交通整備〇年計画」を作り、高齢化に対応する必要があると思う。</li> </ul>

課 題		運転免許証返納者へのフォローが不足している
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 限界はあるが、家族が可能な限り連れ出す。</li> <li>・ 家族も含めて免許返納後のプランニングをする。</li> <li>・ 公共交通機関の情報を調べ、利用を増やす。</li> <li>・ 歩いたり、自転車に乗るようにする。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 免許証を返した時の不便さと対策を地域で考える。</li> <li>・ 返納後の移動手段を提案する。</li> <li>・ 買い物などは近所の人の車に乗って行けるようにするなど助け合う。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デマンドバス（おうかがい市バス）以外に足になるものを用意する。</li> <li>・ 免許返納フォローとなるような情報誌を作成する。</li> <li>・ 返納後の移動手段を充実させるために、バスの増便やバス停の設置を考える。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の免許証返納をする判断は難しい。今まで使っ</li> </ul>

		ていない公共交通機関を急に使いなさいと言っても、使えないと思う。
--	--	----------------------------------

(6) 施設・インフラ

課 題		歩道,道路の整備が不十分 (歩道が狭い、雑草がある、街灯がない、歩きづらい)
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴミ拾いや草刈りをする。</li> <li>・ 道路等で危険なところを発見したら市役所に知らせる。</li> <li>・ 交通法規を正しく理解する。</li> <li>・ 後方から近づいてくる車に気づきやすくするため、自転車にもミラーを取り付ける。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏場に草刈りをする。</li> <li>・ 公園の中だけではなく、道路・歩道上のゴミ拾いや雑草を取り除く。</li> <li>・ 通学路で暗い場所に青色 LED 防犯灯などを増やすよう要望する。</li> <li>・ 不十分なところを整備する。</li> <li>・ 自転車の利用に関する正しい理解を広める。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自転車道や歩道の拡幅、段差の解消をするなど、道路を再設計する。</li> <li>・ 街灯を整備する。</li> <li>・ 除草剤を散布する。</li> <li>・ 市民の話をよく聞いて、必要性の高い場所から青色 LED 防犯灯を設置する。</li> <li>・ 自転車用ミラー取り付けに関する条例を定める。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道122号線沿いの大型店舗の反対側の歩道が夜暗い。以前近くで半裸の人を目撃したことがあるので少し怖いと感じている。</li> </ul>

課 題		公共施設（運動公園,行政センター）が利用しづらい
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トリムコースが暗いので、照明を持ってウォーキングする。</li> <li>・ 施設までの交通アクセスを知る。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2人以上でウォーキングができるようなサークルを作る。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域行事を活発にして公共施設に足を運ぶようにする。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動公園トリムコースの照明を LED にして明るくする。</li> <li>・ 新田陸上競技場の夜間の照明を明るくする。</li> <li>・ 横断歩道のように低い位置に照明をつけ、歩きやすくする。</li> <li>・ サークル登録しなくても気軽に行政センターを使えるようにする。</li> <li>・ 公共施設を夜間でも利用しやすくする。</li> <li>・ 駐車場付きの公衆トイレを設けたり、トイレをきれいにして数を増やす。</li> <li>・ 行事のお知らせなどを広報紙や回覧板以外でも情報提供する。</li> </ul>

課 題		公園の整備が不十分
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊具、遊び場の提案をする。</li> <li>・ 遊具などを大切に使い、地域ぐるみの清掃作業に参加する。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整備、整理をする。</li> <li>・ 清掃を担当し、作ってほしい公園像を提言する。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メインとなる遊具を作る。</li> <li>・ 各公園の状態を調査し、整備が必要な部分については、ワークショップなどで意見を幅広くとる。</li> <li>・ シルバー人材センターを利用して整備する。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大きな公園が少ない。住んでいる地区の公園は汚くて、遊具もなくて遊べない。</li> </ul>

## (7) 食

課 題		食事のバランスが取れていない
改善 提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規則正しい生活を心がけ、1日3食取る時間を作るよう努力する。</li> <li>・ 自分で育てて収穫する喜びを子ども達に体験させてあげる。</li> <li>・ 好き嫌いをなくして野菜もタンパク質もバランスよく取る必要があるが、食べる量や野菜を先に食べるなど</li> </ul>

		<p>食べ方も考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食に関する情報や知識を積極的に取り入れ、吟味する。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日3食の必要性、TVや新聞で新たに知ったことなどを地域でお互いに話すことで情報を広めていく。</li> <li>農業体験受け入れ場所の提供やサポートをし、その情報を行政に知らせる。</li> <li>子どもが食事の大切さや大勢で食べる楽しさを学べる食育事業の周知をする。</li> <li>男性を対象とした料理教室を開催する。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業体験などのイベントを発案する。</li> <li>広報紙やホームページなどで農業体験の開催連絡やおいしいレシピを掲載する。</li> <li>管理栄養士や保健師等の専門職員が、1日の食事メニュー例や栄養の考え方などの正しい情報を提供する。また、1週間の食事チェックをしたり、学校で食育(栄養やバランスの大切さ)を教えたりする。</li> <li>特に男性への意識づけを重点的に行う。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>食欲があるのは元気な証拠であり、好きな物を食べられるのは幸せである。</li> <li>必要な摂取カロリーや食べ物に関する情報をもっと広く伝える。</li> </ul>

(8) その他

課 題		少子高齢化によって行政の負担が増加
改善提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルパーなどの資格を持っていなくても、高齢者の話を聞くようなことはできるので、市民が行政と協力して取り組む。</li> <li>周囲とのコミュニケーションを取る。</li> </ul>
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達と高齢者の交流の機会を持つ。(獅子舞やクリスマス会、神社の大祭など)</li> <li>出産可能な世代で結婚していない人にもっと婚活してもらえるようにする。</li> </ul>
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働を呼びかける。今回の住民協議会のように自分事にする努力を行う。</li> <li>個人や地域で取り組めるような事例集をまとめて配布</li> </ul>



		<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 婚活の支援や主催をする。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援ばかり書いてしまったが、これから少子高齢化がさらに深刻になることを考えると行政の負担が増えてしまうのではないか。</li> <li>・ 行政・地域・個人が協働しながら、今回の住民協議会のようなものができたらいいなと思う。</li> <li>・ 行政には、子育てに対する不安などの受け止め先になってほしい。</li> <li>・ 少子化改善のためには、現行労働制度の改善が必要。</li> </ul>

### (9) 自由記載概要

- ・ 身体障がい者や介護を受けている人が利用しやすいトイレをもっと増やしてほしい。また、そのマップも作ってほしい。
- ・ 地域の参加や定年後の生きがいづくりなど、この住民協議会に参加している方は積極的に取り組んだり考えたりしている方が多い。  
一般的には、このように考えていない人がほとんどかもしれない。
- ・ 田舎育ちから都会にあこがれて一度は出たものの、やっぱり育ってきた太田の良さ、住みやすさに惹かれて戻りたい気持ちが強くなった。  
行政や地域との関わりがある時点で、若い世代が太田でより住みやすく活性化し、世代を超えた方々とも関われる機会が増えればいいなと思った。
- ・ 行政の取り組みを知るツールが限定的。もっとたくさん市から発信があったらいいなと思う。
- ・ 3号保険でも市で(例え有料でも)健診などかかりたい。  
若い世代にも健康を考えるきっかけになる→健診など
- ・ 地域をよくするのは自分達ひとりひとり。また、人は繋がる生き物。
- ・ 情報の提供については SNS 等ネットワーク環境の整備、さらなる促進が必要だと考える。(設備の設置補助・助成、タブレット等の貸出、操作方法の説明等により情報を市側から積極的に進めてはどうか)
- ・ 心の健康に対することが太田市として、もっと強く動いてほしい。世代間の壁を少なくできるよう行政にも頑張ってもらいたい。
- ・ スポーツを通して地域、世代コミュニケーションをとることが大切。その手法としてスウェーデンに学ぶところがあるのでは。

スウェーデンはスポーツを通じた地域クラブが存在する。スポーツの地域クラブとは、1つの地域に1つのクラブを置き、夏はサッカー、テニス、冬はアイスホッケー、卓球などを行う。インストラクターは地域に住む先輩で、子どもたちにスポーツを教える。利点として、①子どもから大人になるまで一貫した育成が可能、②選手として活躍した大人が指導者としても活躍できる、③教える側、教えられる側が世代を超えてコミュニケーションが取れる、④会社をリタイアした人もスポーツを通じて地域コミュニティに参加できる、⑤スポーツを通して地域のつながりができる。などがある。

## 5. 協議会を振り返って

初めての住民協議会は私たちに大きな影響を与えた。車中心の生活になっている私たちは、意識しなければ体を動かす機会がほとんどないことに協議会に出て気づいた。いかにして日常の中に体を動かす工夫を作れるか、また、体だけでなく心の健康も保たれていなければ、本当の意味で健康とは言えないという議論がとても多く出た。

そして、健康を考えるにあたって「地域」が重要な要素であることが見えてきた。地域での関わりの少なさは孤立化を生み、それが健康を阻害する要因になるという議論が多くあり、特に退職後の男性はそれまで地域活動をしていない人が多いために孤立になりがちとの意見が目立った。

それぞれの地域において、世代間の交流は大切だけれど現在はとても少ないという意見も多く出た。世代の枠を超えた交流はお互いに刺激が与えられそれが健康にもつながるということがわかったように思う。「学校の教科書で少子高齢化と聞いてもピンとこないけれど、こういう場でいろんな世代の人の話を聞いてはじめて実感した」という高校生や、「異なる世代の方々と意見を言い合う経験が初めてだったので大変新鮮で毎回楽しく参加した。人生の先輩方が発せられる言葉は説得力があり、とても勉強になった」という大学生の言葉からは、世代間交流の重要性とこの協議会自体が解決策につながっているのだと感じる。

協議会に参加して、毎晩の食事を写真で記録し、忙しい日は品数が少ないことがわかったので事前に作り置きするようにした人や、心の健康の重要性を改めて感じ、悩み事を打ち明けるためのサークルを立ち上げた人など、既に行動に変化が起きた人も出た。

また、健康というと自分自身のことのみで捉えられがちだが、実は、家族、地域、職場、学校、そして太田市全体など多くのことに関わっていることが今回の協議会でわかった。言い換えると、健康は多くの人に関心を持ちやすいテーマであるからこそ、健康という切り口で地域のことや太田市のことを考える場は今後必要ではないだろうか。同時に、このような場を作るにあたっては行政がよりわかりやすい情報を出すことが重要ではないか。今まで行政が何をしているかわからない面が多くあった。市民が健康をより「自分事」として捉えられるような情報の提供を心掛けていただきたい。

この協議会で高まった意識を、私たちは冷めないように次につなげていくことが必要だと思う。まずは、この協議会の存在を周りに伝えていきたい。

## 6. 平成 29 年度住民協議会参加者

第 1 分科会	第 2 分科会	第 3 分科会
分科会長 小林 理恵	分科会長 今野 将雄	分科会長 宮田 廣文
代理者 石井 利幸	代理者 栗原 彰	代理者 野村 幸子
委員 大川 光一	委員 朝倉 節子	委員 岩瀬 茂
委員 加藤 哲弥	委員 阿部 啓子	委員 岡田 明
委員 金成 百里枝	委員 上野 大雅	委員 小沢 めぐみ
委員 齊藤 幸一	委員 大川 邦明	委員 河田 博幸
委員 清水 薫	委員 落合 久美子	委員 栗田 裕之
委員 正田 まさみ	委員 河内 正城	委員 齋田 文子
委員 寺内 明美	委員 河内 直美	委員 渋沢 睦
委員 仲野 栄樹	委員 北村 綾子	委員 関根 笙悟
委員 橋本 厚子	委員 高橋 利江	委員 田那部 悟
委員 肥田 祥子	委員 武内 光敏	委員 長谷川 輝子
委員 真下 邦子	委員 新島 貞子	委員 堀江 亜由美
委員 馬淵 朝香	委員 丹羽 良江	委員 益子 実久
委員 宮田 章	委員 橋本 悟志	委員 松浦 昭延
委員 茂木 悠里	委員 山本 典子	委員 渡辺 尚美
委員 諸田 孝光	委員 吉永 錦史	

### 構想日本

#### <コーディネーター（議論の整理役）>

- ・伊藤 伸 （構想日本 総括ディレクター）
- ・山根 晃 （足立区 政策経営部 子どもの貧困対策担当課長）
- ・石井 聡 （逗子市 経営企画部 参事（秘書・広聴広報担当））

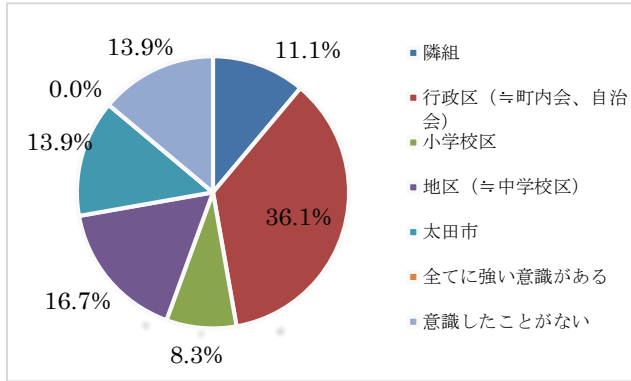
#### <ナビゲーター（論点の提示役）>（第 3 回のみ参加）

- ・岸 紅子 （NPO 法人日本ホリスティックビューティ協会 代表理事）
- ・色平 哲郎 （佐久総合病院 地域医療部 医師）
- ・中田 華寿子（元ライフネット生命 常務取締役）

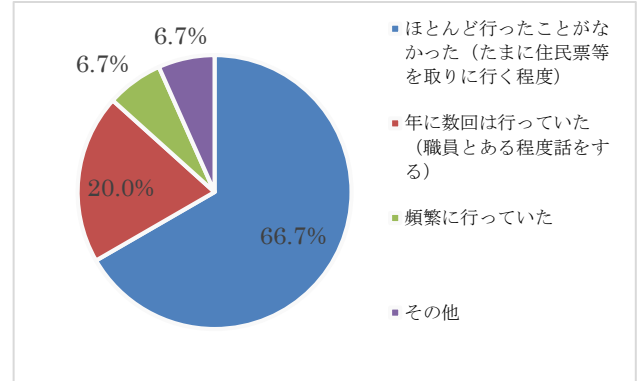
## 7. 付録：アンケート結果

第1回及び第4回の住民協議会にて実施したアンケートの結果を下記に示す。

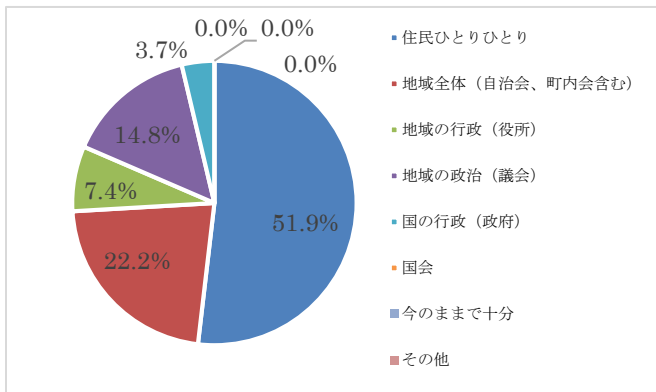
- あなたが、一番強く意識している地域の単位（帰属意識）はどこですか。（第1回）



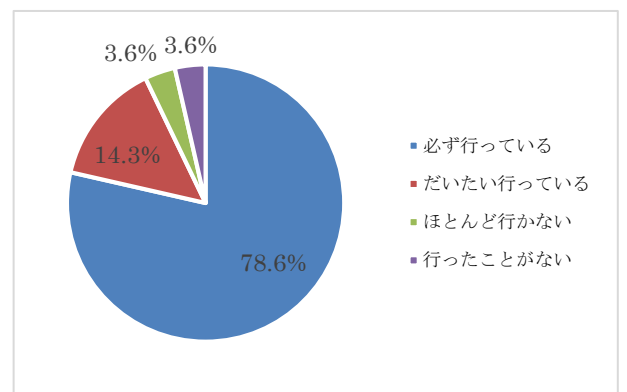
- あなたは住民協議会に参加する以前に、太田市役所とどの程度の間わりがありましたか。（第4回）



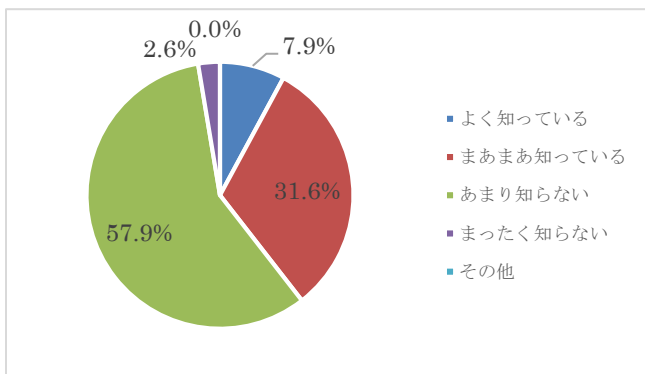
- 太田市をより住みやすくするために、特に誰が主体的に行動することが必要だと思いますか。（第4回）



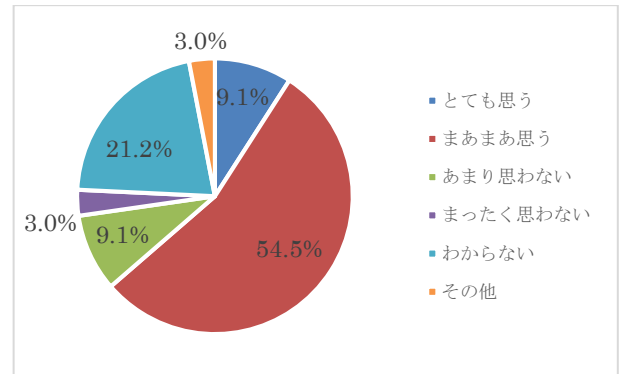
- 選挙の投票に行っていますか。（第4回）



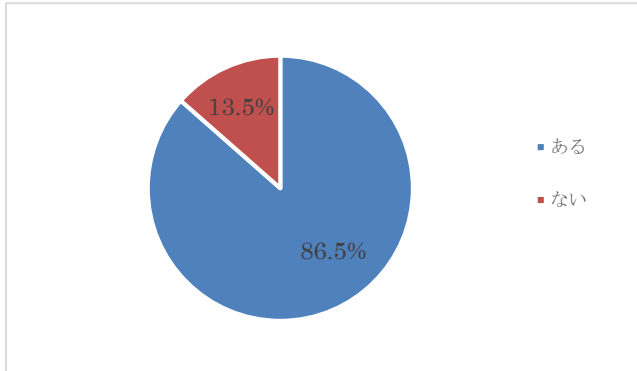
- 太田市が健康や福祉に関してどのような施策を行っているか知っていますか。（第1回）



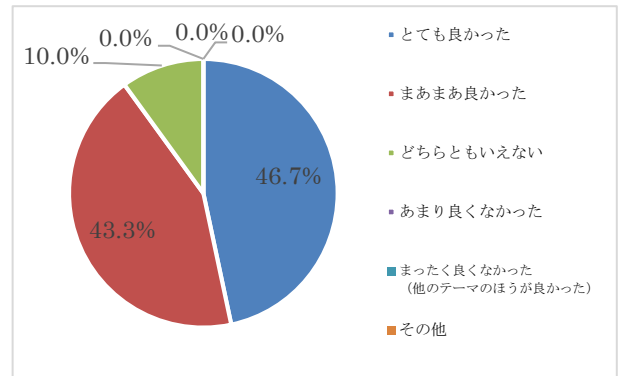
- 太田市の健康や福祉に関する取組みは進んでいると思いますか。（第1回）



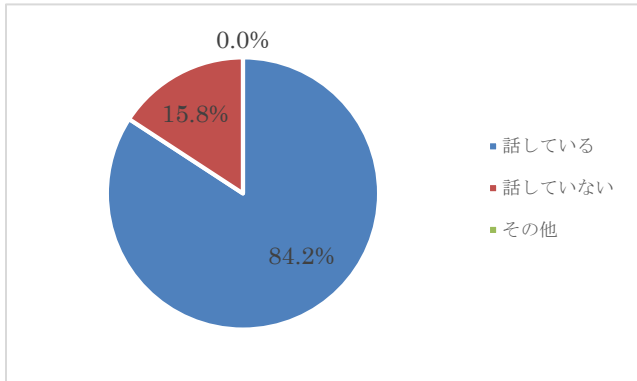
- ご自身の健康を考えて行っていることはありますか。(第1回)



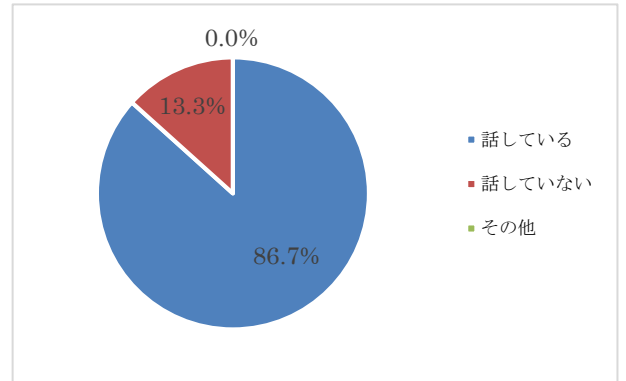
- 今回のテーマ「健康づくり」は住民が考える内容として、どう思われますか。(第4回)



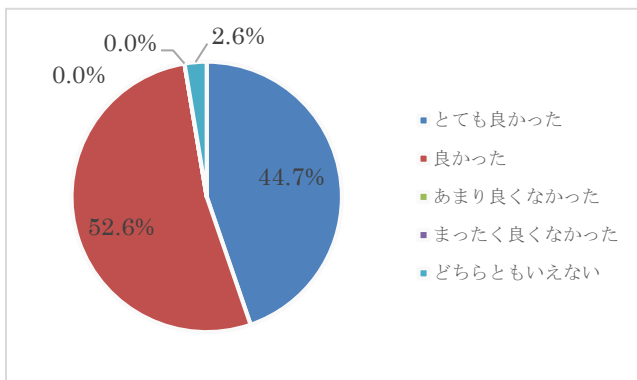
- ご自身の健康のことで、身近な人と話し合っていますか。(第1回)



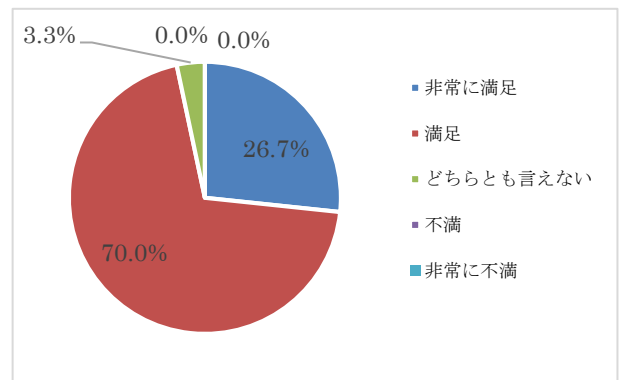
- ご自身の健康のことで、身近な人と話し合っていますか。(第4回)



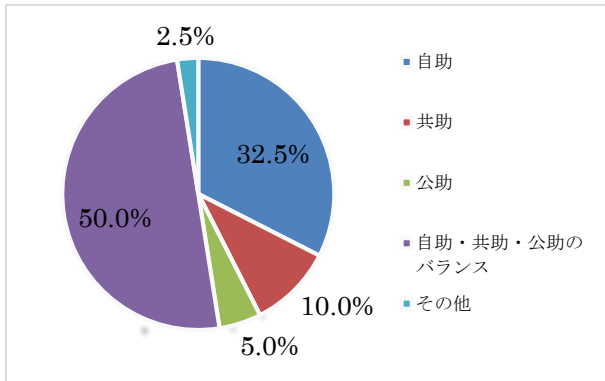
- 住民協議会に参加してみて、いかがでしたか。(第1回)



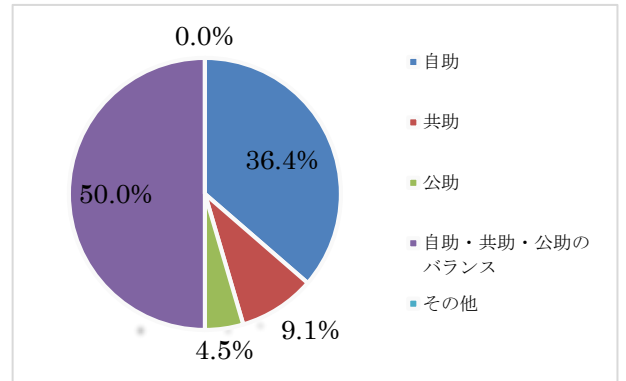
- 住民協議会に参加してみて、いかがでしたか。(第4回)



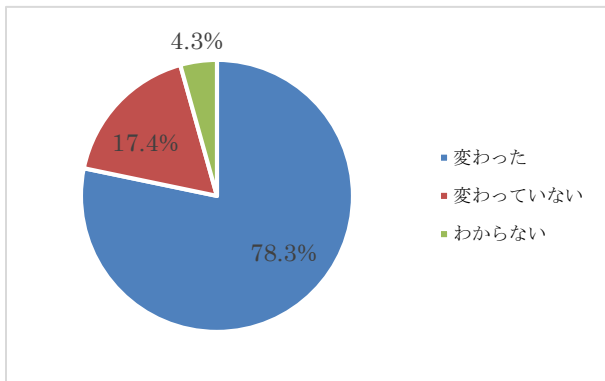
- みんなが健康に暮らすためには自助・共助・公助のうち、どれに重点を置くべきだと思いますか。  
(第1回)



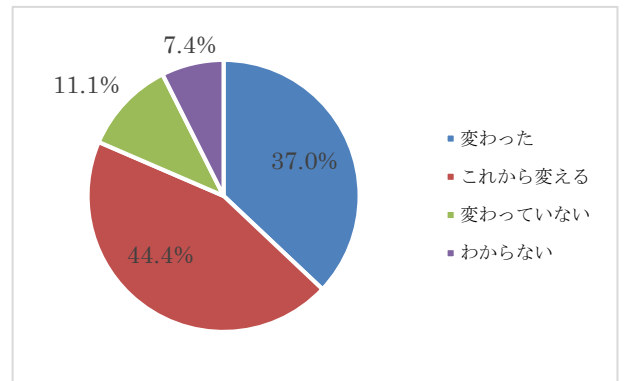
- みんなが健康に暮らすためには自助・共助・公助のうち、どれに重点を置くべきだと思いますか。  
(第4回)



- 住民協議会に参加したことで、意識に変化はありましたか？（健康や地域、市政に関することなど）  
(第4回)



- 住民協議会に参加したことで、行動に変化はありましたか？（健康や地域、市政に関することなど）  
(第4回)



<「太田市役所との関わり」の具体事例>

- ・ 行政センターは毎週利用している。
- ・ 行政センターやサービスセンターなども充実しているので、足を運ぶ事が少ない。
- ・ 税金等で相談。
- ・ 税金を取られるだけでなく、自分の意見も吸い上げてくれる庁舎であれば訪問しなくなる場所になると思った。
- ・ 転居の手続きのみ。
- ・ 地元の木崎行政センターへはよく行っている（趣味サークル）

<住民協議会に参加したことによる意識の変化の具体事例>

- ・ 今後の健康づくりの意識。
- ・ 健康に対して、深く考えるようになり、食事も気を付けるようになった。
- ・ 自分の経験を生かしてできる事をしたいと思うようになった。意見交換をする楽しさを見出せたことと、皆さんの行動力や意識改革に刺激を受けたこと。
- ・ 自分の幅の狭さがより理解できた。
- ・ 今までは、何も考えないで、ただ毎日を過ごしていましたが、色々先輩のお話を聞いて、積極的に参加したいと思いました。
- ・ 地域との交流。
- ・ 自分の意識の大切さ。自分ごと化すること。
- ・ 健康に対しての考え方が少しましになった気がする。
- ・ 健康に対する考え方が変わった。行政（市役所）が何をやっているのか考えるようになった。
- ・ 地域、年代によって千差万別である。これを平均的に満足するのが非常に難しいと実感した。
- ・ 今まで消極的であったが、積極的に外にかかわりを持っていこうと思うことができた。
- ・ 人と話をしていて、今まで聞き流していたような事でも、何が問題なのかと気にするようになった。
- ・ 一市民でも発言したり、行動すれば少しは行政を動かせると思った。
- ・ 健康に対してさらに気にするようになった。
- ・ 自ら考えて動くことが必要であり、自助努力の大切さを痛感した。
- ・ 太田市に対する意識が少し変わってきた。



<⑦住民協議会に参加したことによる行動の変化の具体事例>

- ・ 周囲の気配りの大切さ。
- ・ ヨガまたは、無理なく続けられる運動を始めようと思う。
- ・ 若い世代の母親のサポートをするためにいろいろアイデアを考えはじめた。
- ・ 交流に関して、集まる場所、コーディネーターなどの育成をしてから、個々の課題に取り組む。
- ・ マラソンやトライアスロンに参加されている方に影響を受け、私も時間をみつけてランニングぐらいのことはしたいと思いました。また、今後もラジオ体操を続けていこうと思います。
- ・ 地域への関わりをもっと積極的に行なっていきたい。
- ・ 太田市広報を隅々まで読むようになった。太田市のホームページを読むようになった。
- ・ 周囲に伝えるようになった。
- ・ 今でも行政センターなどをかなり利用してきましたが、さらに一層活用したい。
- ・ 市政に関心を持つようになった。

<住民協議会全体の感想や太田市について>

- ・ 太田市の行政が、いろいろな事を行っているのに知らない事が多いと気づいた。
- ・ 自分の住んでいる地域の事を考える良い機会になった。
- ・ 健康づくりというテーマは広すぎるように感じた。スポーツ、食事、健診など細かいテーマにした方が話題がとばなくて良いと思った。
- ・ いろいろと活性化を試みていると感じた。更なる進歩を期待する。
- ・ 施設の地域分散を図る。市中心部は車社会の太田市では、渋滞や駐車場不足などから、行政センターを中心に都市計画を作成していくことが大事ではないか。
- ・ 一番は、異なる世代の方々と意見を言い合う経験が初めてに近いものだったので大変新鮮で毎回楽しく参加した。人生の先輩方が発せられる言葉は説得力があり、とても勉強になった。最初の抽選は無作為だったが、貴重な機会をありがとうございました。
- ・ 今回のような機会を作っていただき、とても勉強になった。ありがとうございました。
- ・ いろんな方の意見を聞くことができとても有意義な内容で勉強になった。自分の考えをまとめて意見や文章にすることは難しく、非力さを感じたが、太田市の行政にこれからはより関心を持っていきたい。
- ・ 企業で実施している下記の事項を実施されているのでしょうか？  
PDCA (Plan, Do, Action, Check) サイクル、情報の見える化、明確な目標設定。
- ・ 良い話し合いが出来たが、ゆったり感が少なく、忙しい話し合い、まとめ、発表であり、大変だった。

- ・ 話し合う内容はとても面白い内容でしたが、時間が少なくテーマも幅広いものばかりであったので、十分煮つまっていないような感じがした。もっと回を多くしてより深く掘り下げた話し合いができれば良いと思った。ただ、埼玉から今年転居してきた私にとって、太田市のことを知る良いきっかけとなった。今後も広報紙等を通じてもっと太田市のことを勉強していきたい。
- ・ かなり高いレベルの対応、行政が行われていると感じた。
- ・ 選んでいただきありがとうございます。参加するにあたって、「健康」というテーマだったが今まで関心を持っていなかったため、ためらいもあった。しかし、参加してみて健康というテーマは地域コミュニティにも関係しており、自分ごとにするだけでなく自分の視野を広めることのできる良い機会だった。自身としてはうまく発言することができなかったが、今後いろんなことに関心を持ち、またこのような場で発言できるよう日々取り組んでいこうと思う。
- ・ 大変楽しく参加した。自分の意見を発信することは緊張感を伴う事で、頭を使ったりとなかなか難しい事でしたが、良い勉強になった。今後も継続していくと良い。
- ・ グループ差があったように思った。
- ・ 構想日本の存在をはじめて知りました。行政の内側から気づきにくい点を外部から助言してくれる組織は必要だと思った。これからも相互交流して議論を交わしていく必要性を感じた。
- ・ 生活を取り巻く色々な環境、そして市の健康にかかわる現状を初めて知った。とても参考になった。
- ・ 参加された皆様が大変熱心にされていたことに驚きました。
- ・ 住民協議会に参加して、参加者皆さんが真剣に話し合い、熱のこもった話し合いができた。やはり自分から1歩踏み出すことの大切さを改めて感じた。忙しい会合であったが、職員が細かくまとめを作ったのは感心した。
- ・ 今回、この住民協議会に出席、参加できたことに大変感謝している。こんな機会がないと勉強できなかったことが知れて大変良かった。